

スクリーパイルEAZET（イーゼット）設計施工標準（関東・甲信越地区）

・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
 ・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
 ・本掲載内容及び仕様は、2022年10月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1. 件名
先端羽根付き鋼管杭 スクリューパイルE A Z E T
 2. 本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力
 - 1) 長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3} [\alpha \bar{N} A_p + (\beta \bar{N} s L_s + \gamma \bar{q} L_c) \Psi] \quad (KN) \dots (i)$$
 - 2) 短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3} [\alpha \bar{N} A_p + (\beta \bar{N} s L_s + \gamma \bar{q} L_c) \Psi] \quad (KN) \dots (ii)$$
- ここで、(i)、(ii)式において、

α : 基礎ぐいの先端付近の地盤（地震時に液化化するおそれのある地盤を除く）におけるくい先端支持力係数（ $\alpha=300$ ）
 β : 基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液化化するおそれのある地盤を除く）のうち砂質地盤におけるくい周囲摩擦係数（ $\beta N_s=15$ を満たす β ）
 γ : 基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液化化するおそれのある地盤を除く）のうち粘土質地盤におけるくい周囲摩擦係数（ $\gamma q_u=15$ を満たす γ ）
 \bar{N} : 基礎ぐいの先端付近（くい先端位置より下方に $1D_w$ （ D_w : 羽根の直径）、上方に $1D_w$ の範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）
 ただし、基礎ぐいの先端地盤が砂質地盤（礫質地盤を含む）の場合は $15 \leq \bar{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。
 また、基礎ぐいの先端地盤が粘土質地盤の場合は $12 \leq \bar{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

A_p : 基礎ぐいの先端の有効断面積（ m^2 ）
 $A_p = A_0 \cdot e$
 e : 有効面積率（ $e=0.5$ ）
 A_0 : くい先端面積 $A_0 = \pi \cdot D_w^2 / 4$ （ m^2 ）
 \bar{N}_s : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）
 ただし、 $0 < \bar{N}_s$ とし、30を超える場合は30とする。なお、 N_s 値が0の場合、周囲摩擦係数を考慮しない。
 \bar{q} : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（ KN/m^2 ）
 ただし、 $0 < \bar{q}$ とし、200を超える場合は200を上限とする。なお、 q_u 値が0の場合、周囲摩擦係数を考慮しない。
 L_s : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（ m ）
 L_c : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（ m ）
 Ψ : 基礎ぐいの周囲の有効長さ（ m ）
 $\Psi = \pi \cdot D_0$
 D_0 : くい本体径（ m ）

3. くい材から決まる許容鉛直支持力
 $Ra_2 = f_e \cdot A_e \times 10^4$
 Ra_2 : くい材から決まる長期許容鉛直支持力（ KN ）
 f_e : くい材の長期許容応力度（ $= F \times 1.5$ ）
 F : 設計基準強度（ N/mm^2 ）
 $F \times 1.5 = F \cdot (0.80 + 2.5te / r)$ かつ $F \times 1.5 \leq F$
 F : くい材の許容応力度を決定する場合の基準値
 (STK400→235N/mm²、STK490→325N/mm²、SEAH590[STKT590]→440N/mm²)
 t : 腐食しろを除いた鋼管の肉厚（ mm ）
 r : 鋼管の半径（ mm ）
 A_e : 腐食しろを考慮したくい材の有効断面積（ mm^2 ）
4. 適用範囲
 - 1) 適用する地盤の種類
 基礎ぐいの先端付近の地盤：
 砂質地盤（礫質地盤を含む）—— TACP-0635
 粘土質地盤 —— TACP-0636
 基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤

2) 最大施工深さ（ m ）

杭本体部径	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4
先端砂質地盤（礫質地盤）	14.85	18.17	21.47	24.79	28.11	34.76	41.40	46.22	51.37
先端粘土質地盤	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.0	45.8	-

3) 適用する建築物の規模
 床面積の合計が500,000m²以下の建築物

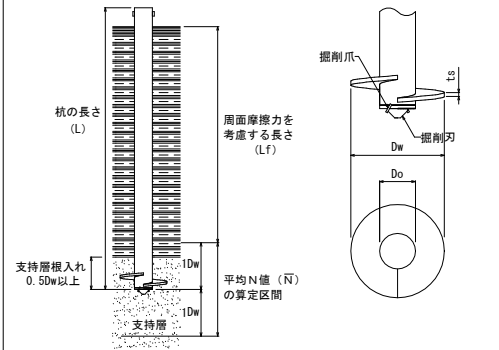
【EAZET（イーゼット）の構造・規格】

1. 関東・甲信越地区向け杭材仕様

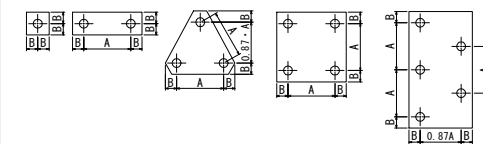
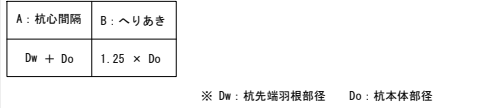
径 Do (mm)	杭本体部			杭先端羽根部		材質
	STK400	STK490	SEAH590 [STKT590]	径 Dw (mm)	厚 ts (mm)	
114.3	6.0	-	-	300	16	SM490A
139.8	6.6	-	-	350	19	
165.2	-	7.1	-	350	16	
190.7	-	7.0	-	450	22	
				400	19	
				500	22	
				570	25	
				470	22	
216.3	-	8.2 12.7	<8.2>	550	25	
				600	28	
				650	28	
				580	28	
				650	28	
				700	32	
				750	32	
267.4	-	8.0 12.7	<8.0> <12.7>	800 ※1	36	
				700	28	
				750	32	
318.5	-	7.9 <12.7>	-	700	28	
				800	32	
355.6	-	<7.9 12.7> <16.0>	-	750	28	
				800	32	
406.4	-	<7.9 12.7> <19.0>	-	800	28	
				880	32	

※1: N値45まで限定
 ※<>の仕様は標準鋼材です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

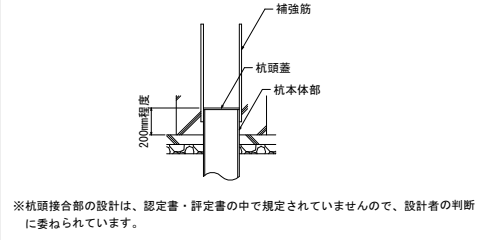
部材	規格
杭本体部	JIS G 3444 一般構造用炭素鋼管 STK400、STK490 MSTL-0230 国土交通大臣認定 建築構造用テーパー鋼管 NS-4901PP MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管 SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材 SM490A



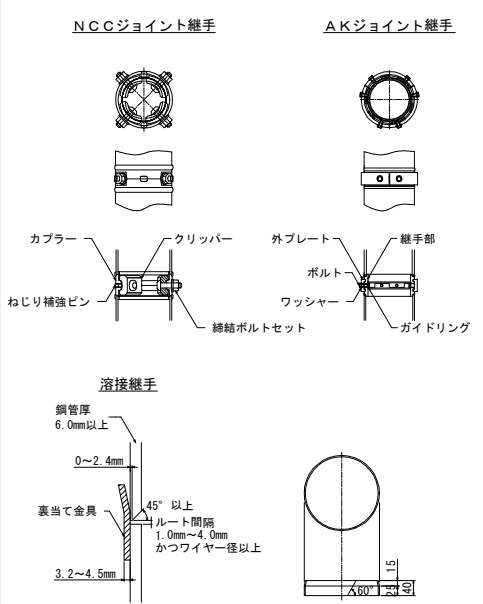
【基礎とフーチング形状例】



【杭頭接合例】



【継手接続例】



【施工管理項目一覧】

工程	管理項目	管理方法	管理値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りがないこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜 1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜 1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ピット、割れがないこと
NCCジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16→約100N・m ボルトM20→約150N・m
	本締め	・シャレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山2山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
AKジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク 90N・m±10%
	本締付トルク	・トルクレンチによる	・締付トルク 180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に0.5Dw以上かつ設計時に設定された根入れ長さ以上
	回転質量	・専用用紙に記録する	・回転質量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

【EAZET（イーゼット）取得済認定、公的評価】

国土交通大臣認定			
名称	認定番号	取得年月日	
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリーパイルEAZET） （先端地盤：砂質地盤（礫質地盤を含む））	TACP-0635	令和4年2月7日	
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリーパイルEAZET） （先端地盤：粘土質地盤）	TACP-0636	令和4年2月7日	
一般財団法人 日本建築センター評定			
件名	番号	取得年月日	
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-09	令和4年10月14日	
鋼管くいに用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（AKジョイント）	BCJ評定-FD0059-03	令和元年6月20日	
一般財団法人 ベタリーピング評定			
件名	認定区分	番号	取得年月日
スクリーパイルEAZET工法における引抜き方向の許容支持力（先端地盤：砂質地盤礫質地盤を含む）	一般評定	CBL FP004-07号	令和5年7月6日
※φ406.4は砂質地盤（礫質地盤を含む）の場合でも、引抜き支持力に対しては適用できません			
一般財団法人 日本建築センター評定			
件名	番号	取得年月日	
スクリーパイルEAZET工法による基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力（先端地盤：粘土質地盤）	BCJ評定-FD0579-02	令和5年4月14日	

旭化成建材株式会社
 基礎事業部
 東京都千代田区神田神保町1-105（神保町三井ビルディング 8F）
 TEL. 03-3296-3546 FAX. 03-3296-3547